

会 議 録

会議名 (審議会等名)	シビックプライド向上計画策定委員会 (第1回)		
事務局 (担当課)	観光・シティプロモーション課 電話 042-707-7045 (直通)		
開催日時	令和4年6月9日 (火) 18時45分～20時30分		
開催場所	相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	8人 (別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	5人 (SDGs・シビックプライド推進担当部長、観光・シティプロモーション課長、他3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員・事務局紹介 3 委員長・副委員長選任 4 現状と課題について 5 シビックプライド向上に向けた取組について 6 その他 7 閉会 		

審 議 経 過

委員の委嘱に続いて、第1回会議が開催された。主な内容は次のとおり。

(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 委員・事務局紹介

委員の自己紹介及び事務局の紹介を行った。

3 委員長・副委員長選任

シビックプライド向上計画策定委員会規則に基づき、委員の互選により牧瀬委員を委員長に、廣田委員を副委員長に選任した。

4 現状と課題について

事務局より、本委員会設置の背景及び目的、今年度予定している事業、本市のこれまでのシティプロモーションに係る取組、市政に関する世論調査結果等について説明を行った。

5 シビックプライド向上に向けた取組について

各委員の立場で感じている本市に対する誇りや愛着について、また、シビックプライドにつながるような活動や経験などについて、意見交換を行った。

4及び5について主な意見等は次のとおり。

(黒田委員) 市への愛着が70%強というのは、結構高いのではないか。他のアンケートも含めてどのようなところに課題があると受け止めているか。

(事務局) 総務省が公表した「2021年住民基本台帳人口移動報告」では、本市は、転入超過になっているが、転入した若い世代に本市に愛着を持っていただいて、長く住んでいただくことが非常に重要であり、子育て世代に対する本市の政策をもっとPRすることが課題と考えている。

(黒田委員) アンケートからこのポイントをどこまで伸ばそうなどという目標値などは定められているのか。

(事務局) 令和3年度のイメージ調査の結果で、認知度については横ばいと評価している。好意的認知と居留意欲については、平成29年度と令和3年度を比べると、少しずつ伸びていると受け止めており、こういったところは今後とも、伸ばしていきたい。なお、第2次相模原シティプロモーション戦略において成果指標を定めている。令和元年度を基準とした令和5年度の目標は、認知度は94.0%、住んでいる地区に愛着を感じている市民の割合を82.3%としている。

(黒田委員) 現状で考えている相模原市の強みとか、今持っているもので、他の都市にない強みとして何か把握しているものはあるか。

(事務局) 条例にも記載しているが、自然が豊かでありながらも都心部からのアクセスが良い、都市部と自然がベストミックスしている点は本市の強みであると考えている。こうした環境は子育てにも適していると考えており、また、自然を生かすという点では、キャンプや、オリンピックを契機としたサイクルツーリズムもこれから伸ばして行きたいと考えている。さらには、JAXAがあるまちという点は大きい。こうしたコンテンツをこれからもっと発信していきたいと考えている。さらには、ホームタウンチームが多いということも強みであると考えている。

(倉澤委員) 調査については、答えにくい部分があるのではないかと。相模原の知名度にJAXAは非常に寄与していると考えますが、直接出てこない。相模原独自の調査をするなら、相模原の強みをもっと前面に出すようなアプローチをしてもよいのではないかと。また、相模原は広いので、全部を知っている人はいないのではないかと。市のいいところを全市民が感じられるにはどうしたらよいか、提案したい。

(羽生委員) 子育て世帯が関心を持っているということから、そうした世代は、子供の教育に意識がうつりつつあると思われ、スポーツと学習は、親世代として関心が高いのではないかと。そうしたところをつなぐ施策を行うことで、より魅力が増すのではないかと。JAXAとしても、自然科学という学問と自然をつなげる役割があり、そうした点で役割を担うことができるのではないかと。

(牧瀬委員長) 参考資料の1について、子育て世代という話があるが、年少世代の増加がリンクしていない。もしかしたら、DINKSや独身者ではということも考えられるため、分析は必要かと思う。また、学力が高いと人口が増えるというデータはある。

(羽生委員) テストの点だけでなく、様々な事に幅広く関心を持つ機会がある環境が親世代の満足度向上につながると考えられる。

(牧瀬委員長) 自然科学に関する教育などもこの計画に入れていきたい。

(羽生委員) 資料4の3ページ、食事がおいしい、の項目が低いのが意外だった。

(山崎委員) 子供たちに対する教育の充実はシティプロモーションになるのではないかと。JAXAやSC相模原など素晴らしい環境があり、そういう部分を強みとして生かしていけるようなものがあればいいと思う。

(中村委員) 誇りや愛着は、ハードルが高いと考える。これらは、自分からしか持てないものであって、人から強制されるものではない。だが、共感だけは作れると思っている。シビックプライドを育てたいと思ったら、共感からスタートするべきと考える。また、ターゲット、コンセプトは、課題を整理し、それをいい方向に持っていくものだと考えている。

また、情報発信についても、世代によるアプローチはそれぞれあるが、スピー

ドや、どうしたら届くのかというのをしっかり考える必要があると考える。周りに情報があって、自然と触れ合える状況を作り出す必要がある。

(牧瀬委員長) シティプロモーションやシビックプライドの取組に関して、市の方向性について確認したい。

(事務局) シビックプライドは皆さんと一緒にアナウンスしていくことで、より広く知っていただく機会に繋がっていくと考えている。また、横浜市のように民間事業者がスポンサーに入ったりして、いろいろな媒体を使ってアナウンスするなど、そうした環境ができてくれば、相模原市はいい街だということがわかっていただけるのではないかと。いずれにしても、シビックプライドを皆さんが持っていたける環境をつくるには、行政の役割と皆さんと一緒にやる取組だと考えている。

(浅川委員) 条例という若い世代や子供たちには堅苦しい印象がある。さがみんのようなキャラクターやシンボルマークなど良いと思う。

(廣田副委員長) 駅周辺でまつりをしようという話があったが、市がなかなか向き合ってくれないという話を聞いた。そうしたところからタグを組んでできないかと思う。スポーツは、街をあげて応援することが必要であると思う。子供の世代から力を入れていくのがいいのではないかと。SDGsの点からは、小さいころから住み続けられる街、仮に外に行ったとしても、戻ってきたり、相模原はいいまちなんだよと教えてあげられるようになればと思う。

(牧瀬委員長) シビックプライドが高い地域ほどUターン率も高いというデータがある。

(牧瀬委員長) 次回、行政計画で一番厚いもの、薄いものをそれぞれ用意してほしい。

また、愛着度の70%が高いのかどうか。近隣市町との比較ができればと思う。

(倉澤委員) 市の情報発信について、ホームページを追いかけるのが大変である。たくさんいい情報があるのだが、それを市民が共有できる環境を作るとはとても大事であると考えている。

(事務局) パンフレットなどはなるべく商業施設にも配架するなど工夫はしているが、皆様のお知恵をお借りしながらやっていきたい。また、情報の更新については、今後検討したい。

6 その他

事務局より、今後の本委員会の開催時期及び検討事項について説明を行った。

7 閉会

以上

シビックプライド向上計画策定委員会（第1回）委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あさかわ 浅川 あゆ	学生		出席
2	くらさわ よしあき 倉澤 良明	公募委員		出席
3	くろだ ともなり 黒田 知誠	株式会社スポーツクラブ相模原 広報部 部長		出席
4	なかむら かずき 中村 和希	公募委員		出席
5	はぶ ひろと 羽生 宏人	独立行政法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 准教授		出席
6	ひろた しずか 廣田 静香	公益社団法人 相模原青年会議所	副委員長	出席
7	まきせ みのる 牧瀬 稔	関東学院大学 准教授	委員長	出席
8	みずもと ひろとし 水本 宏毅	株式会社読売広告社 都市生活研究所 エグゼクティブリサーチディレクター		欠席
9	やまざき ゆうき 山崎 勇貴	公益社団法人 津久井青年会議所 理事長		出席